

令和6年度第2回阿南市教育振興基本計画等策定委員会

日時：令和6年8月22日（木）14:00～15:30

場所：阿南市役所 2階 202会議室

出席者：委員：12人中11人出席（別紙委員名簿参照）

教育委員会：坂本教育長、林委員、里美委員、新居委員、岡本委員

事務局：（教育部）中橋教育部長（学校教育課）鎌田課長（教育総務課）田上課長

（学校再編推進室）西岡室長、藤居室長補佐（教育総務課）小笹補佐、芝山補佐

会次第

1 開会

2 議事

（1）第4期阿南市教育振興基本計画の策定について（諮問）

（2）第4期阿南市教育振興基本計画の答申までのスケジュールについて

（3）阿南市立小・中学校再編実施計画(修正素案)に関するパブリックコメント実施結果について

（4）阿南市立小・中学校再編実施計画（修正案）について

（5）その他

3 閉会

議事（1）第4期阿南市教育振興基本計画の策定について（諮問）

坂本教育長から箕島委員長に諮問。

議事（2）第4期阿南市教育振興基本計画の答申までのスケジュールについて

質疑無し。

議事（3）阿南市立小・中学校再編実施計画(修正素案)に関するパブリックコメント実施結果について

（霜田委員）

これまでの統廃合に関する議論の中で、学校の名称をどうしていくのかといった議論があったと思う。今回、椿町中学校のお子さんや保護者の方などから同意を得て、阿南第二中学校へということになった。これについて、今後の統廃合や学校再編計画の実施とは別のステップと理解して統合を進めていくのか、あるいはこれを再編実施計画の一部としてもう一度議論しなおすのか、どのようにお考えでしょうか。

（事務局）

椿町中学校の再編については、当初は、現在ご審議いただいている再編実施計画の策定を終えてから、阿南第二中学校、椿町中学校、福井中学校、新野中学校とあわせて再編を進めることを想定していた。一方で、椿町中学校の実情として、生徒数の減少から来年度には自然休校ということも想

定されるような状況となったため、今回の椿町中学校は計画の策定を待たずに、再編を進めることとなった。

今後の再編については、計画を策定した後に、再編検討会を立ち上げて、合意形成を取りながら計画に沿って進めていきたいと思う。

(片山委員)

小規模特認校について、説明の中にもあったが、捉え方がそれぞれの人によって違うように感じた。徳島県初の小規模特認校とするならば、特色ある学校づくりがどのようなものなのかよく見えてこない。例えば、まるごと高専みたいにITやデザインなど何かに特化して、小学校のうちからグローバルな面をできるような学校なのか、それとも地域の自然資源を生かした学校にするのか、そのあたりPRの仕方でも生徒数も変わってくると思う。

また、質問として吉井小学校から富岡東中学校への受検率はどのようになっているのか。保護者がどのようなニーズを持っているのか知りたいと思う。

(事務局)

吉井小学校から富岡東中学校への受検率は把握していない。改めてご回答させていただきたい。

(箕島委員長)

受検率のご質問の意図について、御教示いただきたい。

(片山委員)

パブリックコメントからでは、「吉井小学校を残してほしい」、「大野小学校と統合して新たな学校にしてほしい」という、それぞれの意見を地域の方が言っているのか、実際の保護者の方が言っているのかつかめなかった。そこで例えば、吉井小学校から富岡東中学校への受検者数を知ること、吉井小学校から大きい学校に行きたいという希望がどれくらいあるのかを知りたかった。

(田中委員)

吉井小学校の子どもたちが何を望んでいるかということで、数は少なくなっているの、友達がたくさんいるところに行きたい、集団とまではいかないが、子ども同士で集まって何かをしたいというのが子どもたちの願いだと思う。そういう風な環境をどう作ってあげることができるのだろうかと考えている。受検を意識して、塾に行くという思いを持っている子は少ないと思う。

(原田委員)

吉井小学校に子どもが以前通っていた。富岡東中学校の進学について、学年によってムラがあると思うが10人中1人くらいだと思う。1割行くか行かないか。目的としては、大人数というよりは、公立では学べないことを学びたいという、学力に関する向上心が親子ともに高いと感じている。ただ、受検に合格しても地元の学校に友だちと通うことと悩んでいる方がほとんどである。学校で選ぶより、授業内容で選んでいる傾向があると感じている。

また、大きい学校を希望しているかは意向がバラバラであると感じる。人数だけで考えている方もいれば、スポーツでやりたいことがあるといった方もいるが、その割合も2割前後となっている。7割から8割は実際に加茂谷中学校に進学していることから、地元に残りたいという希望を持っているという印象を、保護者としてここ数年見ていて感じている。

(片山委員)

ありがとうございます。

(多喜川委員)

原則として、小学校入学するにあたって選択肢はない。そこに生まれたから A 小学校に行く、B 小学校に行くということになっている。

吉井小学校が小規模特認校になったことで、保育所や幼稚園のお子さんが吉井小学校に行きたいという意思はないと思う。保護者がどういう教育をしたいか、どういう子どもに育てたいかと思っているところが主になる。

例えば、トエックに行かせたいという保護者は阿南市外からも一定数いる。それはトエックで育てたい教育内容があるということである。公立で目指す何かを吉井小学校で作られる必要はあるのかなと感じる。

総論では学校の統廃合に賛成ではある。一方で、実際に自分たちの学校が対象となった時に、その学校の姿が見えないことが不安感にも繋がっていると思う。山口小学校に関する意見が多いことも、そういう不安感があるのだと思う。

(美濃委員)

小規模特認校について、阿南市教育委員会がどういった学校を目指しているのか。もし具体的なビジョンがあるならば、この場でお答えしていただきたい。

(事務局)

加茂谷地区において、小規模特認校に関する説明会を地域の要望もあって実施した。その中で2つのパターンをお示しさせていただいた。

1つ目は、例えば今までの地域の教育資源を有効に活用するような教育手法。もう1つは、先ほどの片山委員のご意見につながるかもしれないが、英語などの教科学習に特化した学校の2つをお伝えさせていただいた。

また、パブリックコメントの回答にもあるように、具体的な学校像は、学校長の考えを尊重し、教育委員会による教育環境の整備、校長による学校マネジメント、教員による教育手法の充実に取り組むことも必要であると考えことや、学校の主体性、教育委員会の支援、地域のご協力を得ながら、小規模特認校を進めていかなければいけないと考えている。

(美濃委員)

小規模特認校は徳島県で初めてということだが、県の教育委員会と連携とかは取られているのか。

(事務局)

今現在は実施計画の策定段階のため、具体的に小規模特認校について協議等はできていないが、徳島県教育委員会に対しては、阿南市として学校再編で取り組んでいくことについて、今後情報共有をしていきたいということを伝えている。

(多喜川委員)

学校統廃合に対する不安感を解消するためには、魅力ある学校づくりとともに地域の活性化が重要だと考えている。実際に、パブリックコメントの意見にもあるように学校がなくなることを寂しく感じている方がいるというのはとても理解できる。

その中で、地域を活性化するために地域住民と行政の協働体制が重要で、特に再編後、廃校とする学校施設を有効に活用ができるよう市長部局との連携をしていくことが重要と回答されているが、その見通しはついているのか。

例えば、今後の説明会において市長部局の方も来ていただいて、学校施設の利用方法等について意見交換ができるようになれば、参加者も安心してもらえると思う。

もし、そのあたりの今後の方向性が決まっているのであれば教えていただきたい。

(事務局)

地域と行政の協働については、学校再編の取組を進める中で、教育委員会だけでは解決できない課題があるということ認識している。例えば、椿町中学校の閉校についても、地域への影響や学校を閉校した後どうするのかということが課題にある。

先日、椿町中学校の閉校に関する住民説明会を行ったが、教育委員会だけでなく、市長をはじめとする市長部局と一緒に説明させていただいた。

また、後日には市長と教育委員による総合教育会議を予定している。その中の議題の一つとして、学校再編と市長部局との連携ということも議題にしている。

このように、今後教育委員会では学校再編を進めるにあたって、市長部局と強力な連携をとって進めていきたいと考えている。

(多喜川委員)

椿町中学校はどちらかというと自然閉校である。人数が少ないために、この学校に通わせることが心配、近くの学校に行かせたいという思いから、そこで学ぶ子どもがいなくなったということである。

この俎上に載っているのは強制閉校である。山口小学校のようにまだまだ元気でやれる、桑野小学校よりも山口小学校のほうが良いという提案もあるくらいのため、より一層今の話は大事になってくると思う。教育委員会に学校再編を任せるのではなく、市長や市の幹部の方が来られて、まちづくりのビジョンや方向性を出してくれることで、道が進んでいくと思う。

(美濃委員)

通学手段の回答のところで、将来的に住民の方々の混乗等、スクールバスの運行に支障がない範囲で有効活用する方法を検討するとある。再編統合するにあたって、スクールバスを運行することは話を聞いていたが、この混乗方式というのは将来的とはいえ、行政の縦割りからして色々な部署との連携や、予算のこともあって、なかなか難しいと思う。そのあたり、もう少し詳しくお話しいただきたい。

(事務局)

混乗方式は一般の方も混乗できる形になっているが、運行については複雑でノウハウが必要とされており、難しいと言われている。そのため、スクールバスを導入して安定的に運行できるように

なれば、混乗方式を考えていきたいと思っている。例えば、具体的に導入しているのは、近隣でいえば上勝町がある。

また、市長部局との連携について、既存のバス路線がある地域においてはスクールバスをどうするのかなど、色々なことで市長部局と連携していかなければならない。先ほど市長部局との連携は今後進めると話したが、このスクールバスについては、都市政策課と先駆けて連携をしており、交通事業者とのヒアリングや協議を繰り返しているという実情となっている。

それくらい、スクールバスの運行は複雑で難しいため、早め早めに取り組んでいかなければならないというスタンスで行っている。

(箕島委員長)

混乗というのは、一般路線バスに小中学校の児童生徒が乗車するもので、住民の方の足を確保すると同時に生徒の通学も便利になる利点がある。

つまり、スクールバスを運行して通ってもらうのではなく、路線バスを活用するものである。そうすることで、生徒は通学に便利になり、住民も出かけるのに利用しやすくなる。この場合、路線バスの運行業者にも国や地方公共団体から補助を出しているところがある。最近では、値上げやバス路線の全廃などがあって難しい面もあるが、種々工夫することが重要である。

(笠原副委員長)

意見というか感想になるが、パブリックコメントを拝見して、様々な意見があると感じた。その中で、我々が大事にしないといけないのは、子どものためにより良い学校を作ってほしいという意見を大事にして進めていただきたいと思う。地域によって事情は異なるが、検討委員会を早く立ち上げて、地域の方を巻き込んで進めていくことが大事である。第二の椿町中学校ができるとなると、この計画案自体が意味をなさなくなってくる。

(事務局)

検討委員会の立ち上げについて、ご意見のとおり早く立ち上げていく必要があると思う。すべてのところで同時に立ち上げることは難しいが、急ぐところから順次立ち上げをすること、また、この学校再編実施計画が策定されたら、速やかに地域住民説明会を開催し、学校再編に向けて検討会の立ち上げのことも含めた説明をさせていただく予定である。

(田中委員)

椿町中学校のように学校や保護者から再編の話が出てくる前に今後はしていく必要がある。事務局としても、早くスピードを出して進めてほしいと思う。

(事務局)

ご意見の通り、早く取り組んでいかなければいけないということを改めて再認識をさせていただいた。

(原田委員)

前々からお願いしているが、山口小学校や吉井小学校に関する様々な意見が出てきたのは、実際に具体的な内容がまだ示されていないため、どうなるのかという不安が大きいと思う。

実際に具体例を出した時に、このような本当の意見が出てくると思うし、この感じだのご存じな

かったという方も未だにたくさんいらっしゃると思う。そのあたり、告知をもう少ししっかりしていただきたい。未就園児には子どもの健診があるため、そういった機関と連携してお知らせいただくことや、地域の方には新聞や、若い世代にはチョークデジタルやテレビなども含めて、普段情報を取っていない方もいることから、大袈裟なくらいにお知らせしないといけないと思う。

そのためには、しっかりとした内容を早く決めて、みんなですっかり伝えるという告知を本当にもっともっと力を入れて頑張っていたきたい。

(事務局)

告知について、教育委員会もできるだけ色々な方にお伝えしたいと思っており、新たな手法があれば、その手法を取り入れていくようにしていきたいと思う。例えば、パブリックコメントも今までの従来のやり方に加えて、電子申請という取組も行っている。できることであれば、取り入れてやっていきたいと思うので、また、アイデアがあれば色々とお聞かせいただきたい。

議事(4)阿南市立小・中学校再編実施計画(修正案)について

(美濃委員)

新しい学校づくりの子ども像についてすごく素晴らしいと思うが、今現在、働き方改革で先生たちの残業やクラブ活動とかの長時間労働を見直すことが行われていると思う。

やはり、子どもたちと関わる大人が元気じゃないと子どもたちを元気にできないし、幸せにできないと思う。そういった中で、ここに掲げられている言葉にちょっとギャップがあるように思う。

学校現場では、ある小学校では全町運動会は徒競走だけの参加でお願いされたり、ある中学校の文化祭では模擬店を行わなくなったりということが色々な学校でされていると耳に入ってきている。

その点で、ここに書かれていることが実際に学校現場で行われているのか、それとも、再編統合ができた後にこれが始まるのか、そこが気になるため、お答えいただきたい。

(事務局)

子ども像に示されている確かな学力、表現力そして社会力・生活力の育成と教職員の働き方改革の取組が並行してできるのかというご質問だったと思う。

1つ例を挙げさせていただくと、阿南市教育委員会では、夏休み明けの1週間をゆったりスタートということで、子どもたちの段差のない学校生活へのスムーズな移行と教職員の働き方を見直す機会ということで施策を進めている。

学校現場においても、この学力というのは学習指導要領にある「学力の3要素」にもとづいた内容であり、今現在も既にこの内容を教育課程の中に盛り組んだ取組が進められているところである。

また、学校行事についてもコロナの時期を境に、子どもたちの力を伸ばす重要なものをブラッシュアップするというので、例えば、運動会の1日開催を半日開催にするといった取組が現在も並行して行われている。

そのため、ここに示されていることは今現在も既に行われており、それをさらに推進していくというような方向になっているところである。

(多喜川委員)

実際はバランスの問題であると思う。先生方の残業時間は本校では1クラス30名を超えるため、

4月や5月は多い先生で80時間の過労死ラインを超える。これが落ち着いたら、残業時間が少なくなっていくという現状がある。

阿南市内でも1クラス10人の学校もあれば、30人を超える学校もあること、中学校では部活動もあるが、部活動指導員が来てくれる学校もあれば来てくれない学校もあって、それぞれまちまちである。

一方で、保護者の理解を得ながら、教育内容を減らす方向であるということは間違いのないと思う。1日開催であった運動会を半日開催にすることは、種目を減らすことで指導時間が少なくなり、その間の時間を他の授業に回すことができる。また、台風であるとか、色々な感染症のために余剰時間というのを学校では持っている。これを少なくして、できるだけぴったりの時数に合わせるということを国や県からの指導を受けながら、保護者の理解を得ながら減らしていくことが、今後大切になってくると思う。

今は先生のなり手不足などが阿南市内だけでなく、日本国内で起きている。そのことも理解を得ながら少しずつ進めていくということである。

先ほど、課長からお話があったことについても、9月最初の1週間は、昔は半日授業であったが、今は始業式の次の日から6時間勉強することになっている。保護者の方もそれを望んでいるとともに、できたら夏休みを減らしてほしいという要望もある。

そういう意味で言えば、難しいかじ取りをしているところである。それに加えて、この学校再編があって、再編に向けて具体的な取組がそれぞれ学校でされているかという点、教員自身も不安を持っていると思うし、保護者の方からも教員に対して相談のお話があると思う。そういった事を考えながら、我々小学校長会としては話を共有して、阿南市の学校づくり、教育づくりの取組を行っていきたいと考えている。

(田中委員)

教員をしていた経験から言えば、一学級の子どもの数による部分がある。昔は一学級40人くらいいたが、吉井小学校など今では少なくなっている。同じ8時間勤務でも40人の担任しているところと6人の担任しているところでは、仕事の中身がすごく異なる。

学校行事においても、人数が多いところは半日開催にすると種目を減らさないといけないが、人数が少ないところは半日開催にしなくてもすべての種目が行えたりする。その中身を、どのようにして子どもたちの発達につなげていくかということに先生たちが苦労していると思う。そのあたり、担任する子どもが多い先生と少ない先生では疲労度が違うと思う。

また、今の先生たちのお話を聞いても、昔と今で先生としての使命感や喜びは変わっていないと感じている。その中で、子どもの数が減ることは、教育の中身を濃いものにできるというプラスの見方、期待を持っている。

(原田委員)

保護者の素朴な疑問として、先ほどから色々なものを厳選して減らしていくという話だが、先生によって減らし方が異なると思うし、子どもたちも減ることを喜ぶ子もいれば、喜ばない子もいると思う。そういうのは誰が決めているのか、基準があったりするのか。

(霜田委員)

原田委員のご質問に直接答えることになるかわからないが、コロナを経て教育活動の見直しや、働き方改革の波も合わさって、学校行事や会議の内容の精選、あるいは方法を変えていくというこ

とが現状としてあり、結果として出来上がった一例が、先ほども話にあった体育祭や運動会の半日開催である。

一方で、子どもたちの成長にとって大事にしなければならない学びとして、教科の学習だけでなく、教科横断的な学びの機会を大事にしたいという思いが教員にはある。

そういう意味で、例えば、体育祭を作り上げていく計画段階で、どういうことをして体育祭を十分楽しめるようにするのか、半日開催であればその半日をどう楽しいものにしていくかということ議論する機会を作る。そうすることで、自分たちの力で最適解を探していく、選択していくという過程を1つの学びとして考えることができると思う。

そのように、教員としては、子どもの学びの中に子どもが主体的に選択する機会をどう設けるかという工夫や、最適解を導くため議論する場をどう設定していくかという工夫を通して、新しい形の学びを創造していきたいということがあると思う。

例えば体育祭で、内容を盛りだくさんにしているところは熱心で、内容が削られているところは軽んじられていると見られやすいが、子どもの学びの機会は、決してそういうものではないとご理解いただければありがたいと思う。

新しいものを作る時に中身は厳選されているかもしれないが、その中で子どもたちが自分たちで話し合っただけで自己決定をするという、そうした過程を大事にした学びを作り出していくという思いを持って、それぞれの学校で工夫されていると思う。そのあたり、誤解が無いようにしていただきたいと思う。

(箕島委員長)

先生方が、例えば授業や行事で子どもと対応していることだけが、先生の仕事ではない。授業の準備は大変であり、授業方法、課題等多くのことを考えていらっしゃる。

日本には授業準備のため時間を制度として設けていないのが問題であって、欧米では準備時間があると聞いたことがある。

本来は人件費を増やして、教育にお金をつぎ込むと、良い教育ができるようになる。

現在は厳しい条件下の中で、先生方は頑張っている。運動会が半日になったこと以外でも、多くの仕事をされている。この点をご理解いただければと思う。

議事(5) その他について

(事務局)

片山委員から、吉井小学校から富岡東中学校への受検者数についてご質問があったが、原田委員からそれに関する回答があったので、それで問題ないということでよろしいでしょうか。

(片山委員)

問題ありません。

以上